

# 第98回大阪皮膚科医会例会・学術講演会

## プログラム

テーマ

円形脱毛症を中心とした脱毛症の病態と最新治療  
～俯瞰して考えるリトレスチニブの役割～

講師

心齋橋いぬい皮フ科院長  
大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学招聘教授

乾 重樹 先生

日時：2024年8月3日(土) 午後3時40分開場

会場：TKPガーデンシティ東梅田 バンケット 6A  
大阪府大阪市北区曽根崎2丁目11-16 梅田セントラルビル

### 【 会場ご案内図 】



共催 大阪皮膚科医会  
ファイザー株式会社

# プログラム

15:40	開場
16:00-16:20	医会連絡会
16:20-16:35	製品説明（ファイザー株式会社）
16:35-18:05	講演
18:05-18:15	休憩
18:15-19:20	質疑応答
19:20-	情報交換会

## 企画主任より

円形脱毛症は私の入局した当時の治療はフロジン外用、セファランチン内服、ステロイド局注、内服ぐらいしかなかったのですが、ここ数年で免疫学的病態もある程度解明され、バリシチニブやリトシチニブなどのJAKファミリーやTECを阻害する薬剤も登場しました。ただし、これらの新薬は発症初期に使用する薬剤ではなく発症後6ヶ月以上経過した症状が固定している症例が適応となります。今回の例会では円形脱毛症の臨床経験の豊富な乾重樹先生をお招きし、最新の円形脱毛症の病態や治療について解説していただきます。

私は個人的に乾先生には大変お世話になっていて、当院において急激な脱毛を生じた症例については紹介させていただいて、ご意見を伺っています。このような症例についてはトリコスコピーを用いても、私の臨床力では休止期脱毛状態と全頭型に移行しそうな円形脱毛症の鑑別が難しい症例が多々あるのですが、いつも乾先生の眼力には驚かされます。私たち開業医にとっては円形脱毛症の急性期に早急に基幹病院においてステロイドパルス療法を導入していただくことが大切ですが、急性期のステロイドパルス療法により前述した新薬のお世話にならない状態に治癒に至らしめることが可能なのか、また、どういう症例が早急に基幹病院に紹介すべきかも解説していただこうと考えています。今回の例会では臨床経験豊富な乾先生から明日からの診療に役立つ円形脱毛症の知識を得ることができると確信しております。多くの先生方のご来場、ご視聴を期待します。

企画主任：持田 和伸      講演座長：持田 和伸

# 円形脱毛症を中心とした脱毛症の病態と最新治療 ～俯瞰して考えるリトレシチニブの役割～

心齋橋いぬい皮フ科院長/大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学招聘教授

乾 重 樹

演者らが2009年に発表したステロイドパルス療法以来、円形脱毛症の治療は長年大きな変化がなかった。ステロイドパルス療法は急性悪化から概ね6ヶ月以内の急性期、頭皮の脱毛面積が25%以上となった場合により効果が得られる。一方、近年難治性円形脱毛症の新しい薬剤としてJAK阻害剤が発売となり注目を浴びている。しかしながら、ステロイドパルス療法に変わるいい治療薬が出た、これからはJAK阻害剤の時代だ！など過剰な宣伝めいた言説は控えるべきである。なぜなら、円形脱毛症の治療は、急性期（概ね6ヶ月以内）か、慢性期か（概ね6ヶ月以降）、そして、脱毛面積が頭皮のどれくらいのパーセント（最近SALTスコアとして知られるようになった）か、で分けて考えるべきだからである。今回紹介するJAK阻害剤であるリトレシチニブは慢性期で脱毛面積が頭皮の50%以上を占める症例が適応となる。したがって、ある円形脱毛症の患者をみたとき、ステロイドパルス療法にすべきか、JAK阻害剤を使うべきか、という疑問がわいたなら、その疑問を持つこと自体がすでに誤りであるという自覚が必要となる。すなわち、円形脱毛症の治療の考え方は、強い～弱い（素晴らしい～素晴らしいくない）のランク付けがあるのではなく、その時点で症例がどのようなステージで、どのような重症度であるか、をケース分析して治療を選択していくべきである。今回は円形脱毛症の病態を振り返った後、円形脱毛症の治療全体を俯瞰し、演者のステロイドパルス療法の治療成績と絡めながら、リトレシチニブがどのような役割を果たすかを述べたい。さらに昨今のAGAマーケティングが活況を呈した状態で我々皮膚科医が注意すべき診断や治療についても警鐘とともに解説したい。

## 【略歴】

1991年 大阪大学医学部医学科卒業、医師免許取得  
1991年 大阪大学医学部皮膚科学教室入局  
1992年 大阪労災病院皮膚科医員  
1993年 大阪大学大学院医学研究科入学（皮膚科学・生化学専攻）  
1996-8年 米国留学（ウイスコンシン大学、ロチェスター大学）  
この間、1997年 大阪大学大学院博士課程修了、学位取得  
1999年 大阪大学医学部皮膚科学教室医員  
2000年 大阪大学医学部皮膚科学教室助手  
2006年－ 大阪大学医学部皮膚・毛髪再生医学寄附講座准教授（附属病院皮膚科兼任）  
2016年－ 心齋橋いぬい皮フ科院長  
2016－8年 大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学講座招聘教授  
2018年－ 大阪大学医学部皮膚・毛髪再生医学寄附講座特任教授  
2024年－ 大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学 招聘教授

## 乾 重樹先生 資格・学会役職・受賞歴

### 【専門医資格】

日本皮膚科学会専門医、日本アレルギー学会専門医・指導医、日本抗加齢医学会専門医、日本化粧品医療学会専門医

### 【学会役職など】

日本臨床毛髪学会理事長、日本毛髪科学協会副理事長（資格審査委員会委員長、中長期事業計画委員会委員）、日本美容皮膚科学会理事（倫理委員会委員長、機関誌広告に関する委員会委員長、学術教育委員会委員、機関誌編集委員会委員）、毛髪科学研究会世話人、日本研究皮膚科学会評議員、日本アレルギー学会専門医制度試験問題作成委員、日本抗加齢医学会評議員（臨床研究促進委員会委員）、日本皮膚免疫アレルギー学会評議員（広報委員会委員）、日本褥瘡学会評議員、日本化粧品療法学会評議員、Senior Editor, ScienceJ et (Nanoscience and Nanotechnology Section), Editorial Board, ISRN Dermatology, Journal of Cosmetics, Dermatological Sciences and Applications, Case Reports in Dermatological Medicine

### 【受賞】

第3回国際毛髪科学学会, Oral Presentation Award, 2001, 第27回日本接触皮膚炎学会学術大会ポスター賞2002, JSID Shiseido Fellowship Award, 2003.第4回ガルデルマ賞, 2003.第24回日本美容皮膚科学会 アイデアアンドイノベーション賞, 2006, 第107回日本皮膚科学会総会 ポスター賞, 2008, 第8回日本抗加齢医学会総会 奨励賞, 2008, 第72回日本皮膚科学会東部支部総会会長賞, 2008, 平成22年度日本皮膚科学会雑誌論文賞 (The Journal of Dermatology) , 2010, F1000Prime AFM Travel Grant 2013, JD Award, Most Downloaded Articles in 2013, 第14回日本抗加齢医学会総会プレナリー賞, 2014, 第33回日本美容皮膚科学会優秀演題賞, 2015.

企画チーム：持田 和伸  
会 長：持田 和伸

大阪皮膚科医会事務局 〒532-0003  
大阪市淀川区宮原4-1-4 KDX新大阪ビル4階  
関西共同印刷所営業1課内 日下 敦 宛て  
TEL 06-6453-3651